

“話すこと”を意識した学習指導の工夫・改善 ～生徒同士の学び合いの活用～

宮坂 歩

1. はじめに

小学校における英語教育の拡充強化や、それに伴った中・高等学校における英語教育の高度化など、新たな英語教育の体制整備が進められています。

平成 26 年 9 月 26 日に示された「グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言」には、英語教育改革を進めるにあたり、次のことが重要であると示されています。

- ・身近な話題に関する理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養うこと
- ・文法訳読に偏ることなく、互いの考えや気持ちを英語で伝え合う力の養成を重視すること
- ・失敗を恐れず、積極的に英語を使おうとする態度を育成すること
- ・主体的に「話す」「書く」等を通じて互いの考えや気持ちを英語で伝え合う言語活動を行うこと

これらに示されているように、コミュニケーション能力の基礎の育成、言い換えれば、表現活動の中でも特に、“話すこと”に重視した学習指導を工夫・改善していく必要があるのは明確であり、我々英語教員が意識して取り組んでいることであります。

また近年“アクティブ・ラーニング”という言葉が、どの教科においても取り上げられており、それを踏まえた授業改善が進められています。平成 28 年度末に公示された、学習指導要領改訂案では、その言葉自体は少ないものの、それをよりわかりやすくした文言により、目指す授業が示されています。そもそも文部科学省による提示によると、アクティブ・ラーニングとは、学生にある物事を行わせ、行っている物事について考えさせることであり、「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」が実現できているかという視点です。それを取り入れた授業の一般的特徴として次のようなものが挙げられています。

- ・授業を聴く以上のかかわりをしている
- ・学生のスキル育成に重きが置かれている
- ・学生が高次の思考（分析、総合、評価）に関わっている
- ・学生が活動に関与している
- ・自分自身の態度や価値観を探求することに重きが置かれている
- ・問題解決のために知識を使ったり、人に話したり書いたり発表したりしている

これらを踏まえたときに、意欲を高め「主体的な学び」をさせながら、“話すこと”に重視した学習指導をすることは、最も重要な活動のひとつであることは言うまでもありません。ただし、

見た目だけ活動的に“話すこと”をして終わってしまうことは本質とずれてしまいます。他教科と違い、英語の知識が少ない学習者が、英語を用いて「対話的な学び」をすることの難しさもある中、生徒たちにとっての「深い学び」を具体化した学習指導を考えていく必要があるわけです。

【テーマ設定の理由】

平成28年度、本校は校内研究の本発表があり、「学ぶ意欲や考える力を育てる授業づくり～学び合い活動を取り入れた授業展開と学習規律の確立をめざして～」というテーマを掲げて2年間研究を行ってきました。英語科の属するグループテーマを「表現活動を通して学ぶ意欲や考える力を育てる」とし、学び合いの手段として、既習の英語表現を定着させるためのコミュニケーション活動に重点を置いた授業づくりを、全学年で意識するようにはしていました。その活動について、点の活動のみに終わらず、単元をまたいで行う発表や毎時間行う会話活動を取り入れるようにしてきました。私自身の研究も、その取り組みとリンクさせたいと考えました。

本研究の対象とした担当学年（1学年）は、主に市内の3つの小学校から入学しており、それぞれの小学校で少なからず、英語活動は行ってきています。しかし、学習内容や理解度は、学校によって、また個人によってバラバラであり、中学校で本格化する英語学習に期待はもちろんのこと、大きな不安を抱えていることは、小学校への出前授業でのアンケートや、授業内での生徒の発言から感じ取っていました。

生徒の実態を踏まえ、その不安を少しでも取り除きながら、中学校で英語を学ぶようになって、今までより“話すこと”ができるようになったという実感を持たせたいと感じました。また、1年次で抵抗感や苦手意識をなくすことで、2、3年次での活動にも広がりを持たせることができるので、基礎力をつけながらも、自分のことを自分の言葉で表現する機会をできる限り設けようと考えました。

現在英語教育に求められていることと、自分の研究における目標を踏まえ、“話すこと”に重点を置いて、指導の工夫・改善をしていきたいと考え、本研究のテーマを設定しました。

2. 研究内容

(1) 仮説

生徒同士の学び合いを活かしながら、“話すこと”を意識した学習指導を工夫することで、英語で話すことへの抵抗感をなくすことができる。また、自ら話そうという意欲を高め、そのスキルアップにつなげることができるのではないかと考えた。

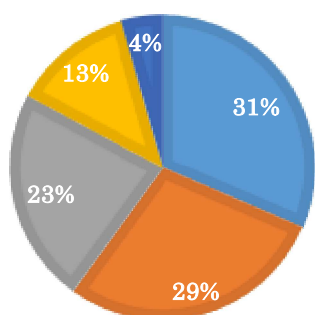
(2) 生徒の実態

少人数制授業という形態がうまく働き、男女ともに活発な生徒が多く、ペアワークやグループワークでも協力して取り組むことができます。伸ばしたい英語の力を聞くと、“書くこと”

の次に“話すこと”が多く挙げられました。“書くこと”には大きく抵抗を示す生徒、つまりきがある生徒は少数いますが、“話すこと”に関しては、どの生徒も真似をしながら発話をしようとし、英語を全く話そうとしない生徒はいません。この生徒たちの英語学習に関する思いと、特に“話すこと”についての意識を知るため、アンケートを行いました。

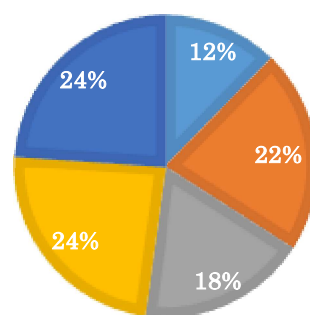
英語が好きですか

- とても好き
- 好き
- どちらでもない
- あまり好きではない
- 好きではない



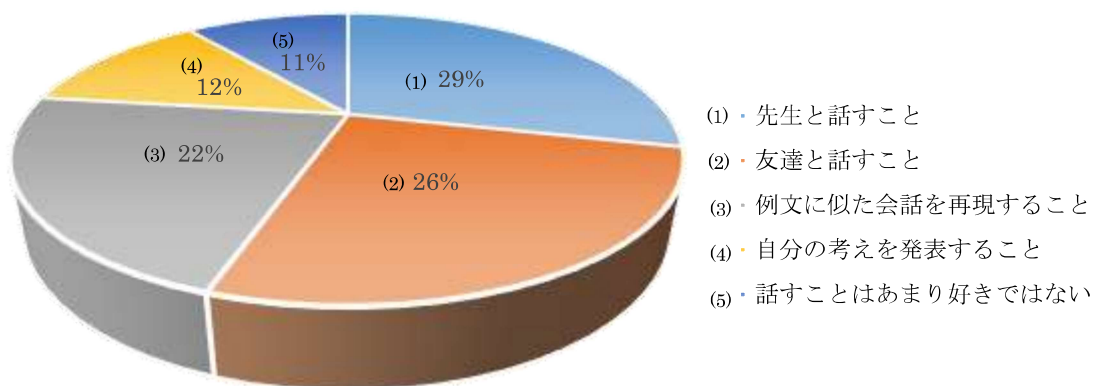
英語が得意ですか

- とても得意
- 得意
- どちらでもない
- やや苦手
- 苦手



「英語が好きですか」という質問には、とても好き・好きという回答が60%を占め、逆に、あまり好きではない・好きではないという回答は17%でした。「英語が得意ですか」という質問には、とても得意・得意という回答が34%で、やや苦手・苦手という回答が48%と約半数を占めました。このことから、英語は好きだ（嫌いではない）が、苦手意識を持っている生徒が多いことがわかります。この好きという前向きな気持ちを「主体的な学び」に活かし、できるようになった、成長したという実感を持たせることで苦手意識を少しでもなくしたいと考えました。

英語を話すことの中で好きなこと（6月調査）



「英語を話すことの中で好きなこと」を尋ねる質問では、11%が“話すこと”に抵抗感が

ある回答でしたが、逆に約 90%は前向きであることがわかりました。しかし、まだ自分の考えを発表する自信が持てないという意見もあり、そういった機会を1年生の段階で少しでも与えることと、そのために、普段の授業から簡単な話す活動を入れながらスキルアップを図る必要があります。“話すこと”から離れないような取り組みを工夫しながら、少しでも抵抗なく、自信を持って発話できる授業を考えていくことで、次学年にもつなげていくことができるのではないかと考えました。

(3) 授業実践

A. 環境・教材面

a) Classroom English

教科書に取り上げられているものは、年度当初に簡単に導入をして、普段の授業の中で使っています。ただ、教科書に取り上げられているものは、教師から生徒への指示のみなので、ちょっとしたことは英語で言わせたいと少しずつ教えていました。平成 28 年度の夏に行われた、英語教員指導力向上研修講座の中で、BRITISH COUNCIL が作ったポスターを活用した映像を見ました。ある単語のスペルがわからず、日本語で尋ねようとした生徒に対して、教師が貼ってあるポスターを指しながら、生徒に英語で尋ねさせ、教師が英語で答えるというシーンでした。そのポスターをアレンジして教室に貼って、生徒に発話させる機会を増やすようにしました。

私が授業をしているのが、学習活動室（英語教室）なので、教室自体はほぼ何もなく、ポスターが映える状況であることは、とても望ましい環境であるといえます。普通教室には毎回持って行って貼るなど工夫が必要かもしれません。いずれにせよ、このポスターの表現を使うようになったことで、多少機械的ではありますが、生徒に英語を“話すこと”を意識させることができていると考えます。現状では、英語で言わないといけなないので質問しなかったり、友達に言わせたりというマイナスな行動は見られず、逆にその英語なら自分にも話せるという自信につなげることができています。

また、英語が得意な生徒が、その表現を活用して別の表現にして発話したり（周囲はそれを聞いたり）、言おうとしている子をわかる子が補助したりという場面も増え、学び合いも生むことができました。未習事項であっても“話すこと”を意識させることもでき、実際に教科書で学んだ時に、理解が深まることも期待できます。



b) 目標の提示

英語学習における「深い学び」のために、目標の提示・共有が必要であると言われています。また、自己評価をさせて学習したことを確認させたいという観点から、毎時間振り返りカードを書かせるようにしており、その時間の目標を記入する欄を設けています。ここで使う目標とは、自分で立てるものではなく、その授業のポイント（授業で達成したいこと）を提示するために使っています。

本研究の観点からいうと、“話すこと”を意識させるときに、何を話したいか、どういうことを心がけるかをわかった上で、表現活動を行うことは大切であると考え、それがメインとなる授業の時には、それを事前に提示するようにしていました。

[例]



これらの目標は、その日やることの内容の詳細を提示するというよりは、その目標をどうやって達成すればよいか（何を学習するのか、何を工夫すればよいか）ということを生徒自身に考えさせるような提示にしています。

ただし、ここで注意をしなければならない点が2つあります。まず目標を提示するタイミングです。例えば、一般動詞の過去形を導入する授業で、導入前に「一般動詞の過去形を学ぼう」と目標を提示し、一般動詞に注目させて、教師の発話を聞かせるというのも一つの方法ではありますが。しかし、何も言わずに昔のことを話す設定を写真などで理解させ、現在形の文と比較しながら英語を聞かせて違いを発見させ、その後に目標を提示する方が、生徒の中での気づきがあり、理解を深めることにつながる可能性が高いと考えられます。

2つ目は、提示の内容です。例えば、同じ一般動詞の過去形を学ぶにしても、「一般動詞の過去形を学ぼう」や「動詞に-edをつける理由を学ぼう」とするのか、「昨日の出来事が言えるようになるろう」とするのかで、生徒の捉え方は大きく変わってくると思います。どれが適当かは研究の余地があるくらい難しい問題ですが、その時の生徒の状況や授業展開を踏まえ、その場にあった目標を考えていかなければなりません。これら2点に関わる話は、座間市で行われた外国語教育研修講座で東京学芸大学の粕谷恭子教授が述べられていましたが、“学びのおいしいところ”を奪わないようにする必要があるわけです。

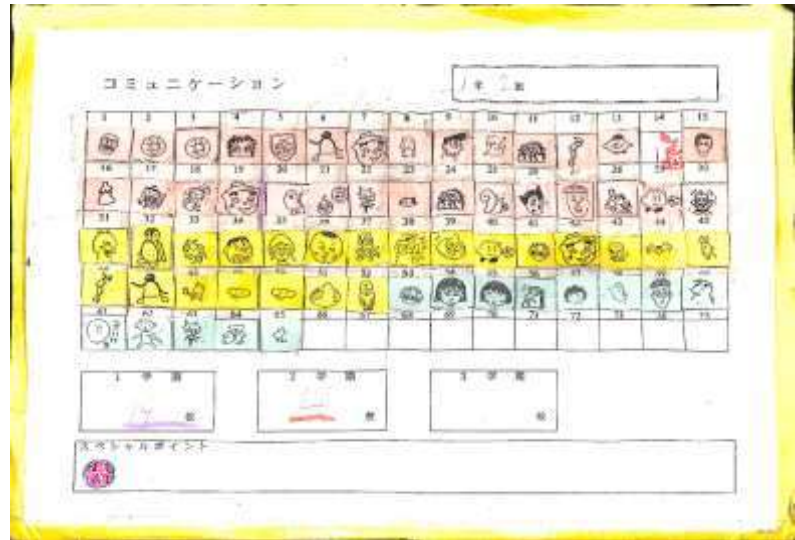
また、この目標を段階別にして評価規準をつければ、ルーブリックとしても活用できるので、毎時間行うことは難しいかもしれませんが、単元の要所にはそれを取り入れるなども考えていきたいと思います。

c) コミュニケーションポイント

教科書やノートに加えて、生徒が持つ教材の一つに「英語カード」というものを作ってい

ます。その中には、上記の振り返りカードや教科書の暗唱スタンプカード、単語マラソンカードなど学習意欲を高めたり、自分の頑張りを確認したりできるプリントが貼られています。その一つに、コミュニケーションポイント（通称コミポ）カードというものがあり、生徒がコミュニケーション活動に積極的に取り組んだ時に、キャラクターが描かれた小さく切った画用紙のカードを教師が渡します。それをポイントカードのように、自分のシートに貼って貯めていきます。

教師側の準備としては画用紙を印刷して切るというひと手間なのですが、このコミュニケーションポイントを手に入れるために、生徒たちは驚くくらいコミュニケーション活動に積極的に取り組みます。評価としては、関心意欲を測る項目のほんの一部にしかすぎませんが、生徒たちとしては



ちょっとしたご褒美的な感覚なのか、コレクションを集めていく感覚なのか、「評価を上げるため」というより「話すこと」にチャレンジすると良いことがある」という姿勢で、ポイントを集めようとしている様子がうかがえます。コミュニケーション活動が少ない授業で、ポイントをもらえる機会が少ない授業だと、「コミポチャンスは？」と催促されるほどで、そのような生徒の言葉が、ある意味では、私自身の授業の“話すこと”への活動状況の指標にもなりました。

英語を書くことに苦戦をしている生徒や勉強そのものにあまり意欲がない生徒でも、積極的になっている姿を見ると、この教材はかなり効果があるといえます。今年度、本校では全学年でこのコミュニケーションポイントの制度を活用しています。これが1年次から定着しており、どの学年でも“話すこと”に意欲を持たせ、「主体的な学び」につなげることに大きく役立っていることは間違いありません。

B. 日常の授業での活動

a) Quick シリーズ

20 問の日本語を制限時間内に英語に置き換える、「Quick シリーズ」というアクティビティを毎時間行っています。出題範囲は、既習または今後すぐ学習予定の単語や簡単な表現を教科書の中から選んでいます。ペアで交代してチェックすることで、自分の成長を確認したり、友達と競ったりでき、時間内に早く言わなくてはというゲーム感覚からか、大変前向きに取り組んでいます。ペアの中では、なかなか言えずに苦戦している生徒に、ヒントを出し

ながら答えを思い出させようとしたり、相手の苦手な単語を分析し、結果を伝えたり、得意な子には順番を入れ替えて出題をしたりなど、学び合いや工夫の場面も見られます。

このアクティビティに取り組むようになって、英語の授業前にファイルを開いて英語を唱えたり、友達と「Quickシリーズやろう」と事前に練習したりする姿が見られるようになりました。いざ予習・復習をやろうとすると、難しく考えて身構えてしまう生徒でも、これくらいだったらできるという取り組みやすさと、教科書で該当の単語が出てきたときにも、理解が早く感じます。英語の授業における「深い学び」の中には、学びながら成長していることを自覚するという要素も挙げられており、生徒のアンケートの中には、「英語ができるようになったと思うときはどのような時か」という質問の回答の中に、「Quickシリーズで言える単語が増えたとき」というものが

多数ありました。そのような意味でも、日々の成長が簡単に見られるアクティビティであり、今回の研究においても効果的な実践であると感じています。

"Quick" Series 「英単語に訳そう」シリーズ

パートナーの姓 ~PL 8 No. 5

1 左の単語（日本語）を読んであげます。
2 もし、隣の人がその英語を言えれば、その単語の欄に〇をつけてあげます。
3 正解の合計数を書いて用紙を本人に戻しましょう。

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	Class(1年 組)
	1分 50秒	1分 45秒	1分 30秒	1分 20秒	1分 10秒	1分	
December	/	/	/	/	/	/	Name()
1 学ぶ、習う							learn
2 難しい							difficult
3 自転車に乗る							ride a bike
4 鳥							bird
5 もの、こと							thing
6 一枚の紙							a piece of paper
7 ギターを弾くことができます。							He can play the guitar.
8 私はテニス部の一員です。							I'm a member of the tennis club.
9 動物							animal
10 傘(かさ)							umbrella
11 学校に行くにはどうしますか。							How do you go to school?
12 私は電車です。							I go to school by train.
13 すみません。							Excuse me.
14 毎週							every week
15 1月1日							January first
16 木曜日							Thursday
17 窓を開けてもらえますか。							Can you open the window?
18 私のペンを使えますか。							Can I use your pen?
19 もちろん。							Of course. / Sure.
20 何回も							many times
合計数⇒							

1で見た単語には、〇を置き 合計も書いてあげましょう

b) 英語の歌

昨年度、3学年を担当して1年間継続して行っていた取り組みで、生徒の中でも好評であったので、本研究を行う中で、ある程度定着をしたら行おうとしていた取り組みで、3学期から導入しました。ただ歌うのではなく、既習の単語や文法が使われている歌を選び、穴埋めリスニングをさせてから、歌うようにしています。心がけているのは、音が外れたり、

間違えたりすることは恐れず、とにかく英語の抑揚やリズムなどを真似して、積極的に歌ってみようと声をかけています。

授業中の様子は、音楽や歌が好きな生徒が多いことも手助けになり、少人数でも臆せず歌っています。すぐに見ることができた成果として、休み時間にも歌う姿があり、英語を“話すこと”への抵抗感がなくなっていることもわかりました。また一部の生徒は、自ら家で練習をしたり、その歌について調べて教えてくれたりと、英語に対する関心や、話そうという意欲を高めることにつながっています。今後もその時の状況にあった歌を取り入れながら、よりスキルアップにつなげられるような展開を考えていくことができたと思います。

C. 単元をまとめる授業での活動

a) My Project 2 [SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 (p.86-89)]

日常の授業でのコミュニケーション活動においても、できるだけ自然な会話になる状況を作るように心がけていますが、自分の気持ちや考えを簡単に述べる程度で、どうしても型にはめた練習になりがちです。特に1年生では、持っている文法や単語の知識も十分とは言えないので、本当の意味での自己表現をする機会は少なくなってしまうのが現状です。自己表現は、心にもない、真実ではないことを言わされることではないので、単元ごとに自己表現の場を設け、それまでに学んできたパターンや重要な原理を活かして、英語を“話すこと”をさせる必要があります。

現在市で採択している、開隆堂の SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 では、学習の段階ごとに、全部で3つの My Project というページが設けられています。これを有効に活用し、取り組んできた“話すこと”をまとめたり、より高いレベルで挑戦させたりする機会にできると思います。My Project 1 では自分のことを話す（自己紹介）スピーチを簡単に行い、次の My Project 2 では人を紹介するということで、いよいよ本格的にスピーチを試みようと“話すこと”のスキルアップを目指す取り組みとして、授業を行いました。

[指導案前半部]

1. 単元名 My Project 2 人を紹介しよう (Sunshine English Course1 [開隆堂 2016] p. 86-89)

2. 研究グループテーマと工夫点

栗原中学校 校内研究テーマ

『学ぶ意欲や考える力を育てる授業づくり ～学び合い活動を取り入れた授業展開と学習規律の確立をめざして～』

グループテーマ 「表現活動を通して学ぶ意欲や考える力を育てる」

<工夫点>

2学期に、3人称単数現在のsや、すべての人称代名詞、助動詞canを学習した。これを総合的に使って、自分の身の回りの人を紹介する文を作り、発表することで、既習事項の確認をしながら、“書く”“話す”という表現活動につなげる。また、互いの発表を聞き、評価することで、聞いている人にわかりやすい紹介文や発表はどのようなものかを考えさせ、今後の表現活動の向上も図る。(=学び合い)

3. 本時のねらい

前時まで準備した紹介文を発表し、“話す”ことの達成感を感じさせる。また、他の生徒の発表を聞き、評価しながら、よりよい表現活動はどのようなものかを考えさせる。

◆単元の指導・評価計画	第1時：My Project 2 (p.86-87) 紹介文の例文の読解とイメージ作り			
	第2時：My Project 2 (p.88-89) 紹介文作成と練習			
	第3時：My Project 2 ★本時 紹介文の発表と他己評価			
	※第4時以降に他クラスの良い発表を見せるなど、相互評価をすると深められる			
	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現 の能力	外国語理解 の能力	言語や文化につい ての知識・理解
第1時	○		○	
第2時	○	○		
第3時(本時)	○	◎		

この授業での工夫点として、自分の好きなキャラクターや有名人、家族などについて書くことで、意欲を高めつつ、既習事項を使いながら、できる限り自分の言葉で表現させるように原稿作りを補助しました。My Project 1の自己紹介では、学んでいることが少なく、自分のことを言うとはいえ、型にはまった文(名前、出身地、好きなものなど)が多かったものの、今回は表現の幅が広がっていることと、紹介する人の写真やイラストを提示させたことで、よりオリジナリティが出ているスピーチとなりました。

そして、書くことではなく話すことをメインとしたかったので、よりよいスピーチとはどのようなものかということを考えさせ、他己評価につなげました。事前に評価項目を伝えたことで、より“話すこと”を意識させることができ、原稿を参考にしつつも前を向いて紹介したり、自分の持っている写真を提示するタイミングを工夫したり、どうしても聴衆が分からない単語を事前に提示したりと、生徒一人ひとりが工夫をしている様子が見られました。

[評価シートの一部]

《発表を聞くときのルール》

- ①まずはペンを持たず、発表の内容と姿勢に集中!
- ②発表が終わったら、ねぎらいの気持ちを込めて拍手!(素晴らしい!お疲れさま!頑張ったね!)
- ③下の評価シートに○をし、簡単なコメント(アドバイスなど)を記入
- ④全員の発表が終わったら、ベストプレゼンターを3人選ぶ

《評価項目と規準》

- (1) **発音** …適切な声の大きさか、英語らしい発音か、聞き取りやすいスピードか(速すぎない)
- (2) **内容** …人をひきつける内容か、様々な情報が入っていて紹介された人のことが伝わるか
- (3) **演技** …表情が良いか、原稿を見ないでつかえないで発表できているか
全体に目線を送り、ジェスチャーなどを効果的に使っているか

A	…3つの要素がよくできている	【○〇などところを参考にしたい!】
B+	…1つの要素が少し足りない	【○〇が良かった!●●を直すとさらによい!】
B	…1つまたは2つの要素が足りない	【○〇は良かった!●●を直すとよい!】
C+	…2つの要素が足りないが、なんとか伝わる発表だった	【C+とCにはアドバイスを!】
C	…2つ以上の要素が足りなく、途中であきらめるなどしたので、もう一度挑戦してほしい	

英語は苦手と言っている生徒が、自分のスピーチをわかりやすくするために懸命に覚えて練習したり、わかりやすくするための提示資料を作ったりと、各自が自分なりに“話すこと”のスキルアップをできる機会としては、とても有意義でした。スピーチの様子を撮影し、実際に自分や仲間の姿を改めて見たり、仲間が書いた評価シートからアドバイスを受けてたりして、希望者にもう一度スピーチにチャレンジさせると、また一段とスキルアップにつながり、達成感も感じさせることができました。

どうしても事前の原稿作りとチェックに時間がかかってしまうので、今までは避けがちでしたが、定期的に簡単にでもスピーチをさせる機会を設けられると、今回の学習内容がさらに活かされると思います。今後の学習内容に一般動詞の過去形があるので、例えば週末や前日にしたことを発表させるなどの活動を考えていきたいです。今回の授業で原稿を準備させたところ、補助がかなり必要な生徒もいましたが、こちらが思っていた以上に自力で準備ができる(原稿の訂正がほとんどいらない)生徒も多かったのも驚きとともに嬉しい結果でした。少し挑戦的なことをさせたことで、生徒の成長が見られ、多くの発見がありました。

4. 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点	評価規準
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶（既習事項を使った Q&A） ・既習単語の復習のペアワーク ・本時の目標の確認（紹介文を発表し、よりよい発表を考えよう） 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業へ意識付ける ・既習事項が定着しているかどうか確認、指導する 	【関心・意欲・態度】 積極的に参加している（発言・姿勢）
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の手順、評価の方法の確認（評価シートを配付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価項目と評価規準は前時に話しておく 	【関心・意欲・態度】 積極的に聞き、他己評価しようとしている（姿勢） 【表現】 既習の英語を使い、相手に伝わりやすく発表している（姿勢・内容）
	<ul style="list-style-type: none"> ・1人ずつ教室の前に出てきて発表する（次の生徒はスタンバイ、発表の終わりには拍手をする） ・発表が終わるたびに評価をつける 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表中は評価を書かず、発表に集中させる 	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・評価シートの回収 →回収したものはまとめ、ベストプレゼンターを次の時間に発表 ・宿題の伝達 ・次回の授業の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子をフィードバックする ・ポイントを再確認する（次の時間に他クラスの発表を見せ、相互評価をすると深められる） 	

5. 評価規準

	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要すると判断した生徒への具体的な手立て (C)
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	間違いを恐れず、自分の考えや答えを積極的に友達や先生に説明することができる。 積極的に発表を聞き、評価シートに記入をしている。	友達の発言や説明を聞き、受動的ではあるが理解しようとしている。 指示された作業を自分なりに行っている。	周囲の生徒からヒントを導き、答えられるようにする。 発表に集中させるように声かけする。評価シート記入時に補助をする。
外国語表現の活動	適切な英語を用い、聞いている人に伝わりやすい発表をする（スピード、目線、内容など）工夫をしている。	多少ひっかかりや不足する点があるが、前向きに発表しようとしている。	練習段階から、準備した文を発表できるように発音などを教えておく。様子を見て、補助をする。

6. 本時を参観するにあたってのポイント

(1) 本時のねらいにおける視点から

既習事項を使い、それぞれが“話す”活動ができるよう、普段の活動から話すことの抵抗感がなくなるように工夫しているので、現段階での集大成の一つと言える。また、お互いを高め合うために、他の生徒の発表を聞き、評価し、よりよい表現活動はどういうものかを考えさせている。

(2) 研究の視点から

それぞれが選んだ題材、考えた内容で表現活動を行うことで、意欲的に活動に取り組むことができるようにしている。また他の生徒の発表から学び、今後の活動に活かすことができるよう意識した。

b) My Project 3 [SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 (p.108-113)]

前述の My Project 2 に続き、年度末のまとめのひとつとして実施したのが My Project 3 です。前の2つの Project では、スピーチの形式で行うものでしたが、今回は、疑問文とその応答を行うインタビュー形式で、実践的に“話すこと”ができるものになっています。

[指導案前半部]

1. 単元名 My Project 3 知りたい情報を引き出そう (Sunshine English Course1 [開隆堂 2016] p. 108-113)

2. 研究グループテーマと工夫点

栗原中学校 校内研究テーマ

『学ぶ意欲や考える力を育てる授業づくり ～学び合い活動を取り入れた授業展開と学習規律の確立をめざして～』

グループテーマ 「表現活動を通して学ぶ意欲や考える力を育てる」

<工夫点>

今までに習ってきた疑問文とその答え方を復習し、それらを実際に使い“話す”という表現活動を行う。前回までのプロジェクトは、一方的に話す、スピーチ形式であったが、今回は相手とのコミュニケーションがメインとなるので、相手の目を見てやり取りすることの大切さ、より多くの質問をさせること、また答えることに重点を置き指導をする。

これらの表現が使えるようになることで2年生以降の学習に大きくかかわってくるので、ペアワークで表現の誤りを確認し、自己の振り返りをさせることで、学びあいにつなげる。

3. 本時のねらい

前時までに練習をした、疑問文とその答え方に関する練習を活用して、インタビューの場面を設定し、実際に活動させる。質問したり、他の生徒の質問に答えたりしながら、自己の表現活動のスキルアップを図る。

◆単元の指導・評価計画				
	第1時：My Project 3 (p.108-111) 疑問文とその応答の復習、練習			
	第2時：My Project 3 (p.108-113) ★本時 インタビューの実践			
	第3時：My Project 3 (p.110-113) インタビューテスト、まとめ			
	※第4時以降も今回のコミュニケーション活動を続けるとよい			
	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現 の能力	外国語理解 の能力	言語や文化について の知識・理解
第1時	○			○
第2時 (本時)	○	○		
第3時	○	◎		

この授業での工夫点は、既習の疑問文とその応答を、日常的に行っているペアワークを発展させたアクティビティで復習をし、ある程度スラスラ言える状況を作り、自然なやりとりを目指したことがひとつです。1年で習う疑問文は基本的かつ、多用するものが多いので、とても有効な練習になったと思います。[次ページ資料 A]

また、インタビューにおいて、教科書に提示されている情報を使うと、知らない情報を聞き出すという、本来のコミュニケーションの醍醐味がなくなってしまうので、自分なりにきるキャラクターを設定させるという方式をとりました。[次ページ資料 B] インフォメーションギャップを利用したアクティビティは他にもありますが、基本となる疑問文とその応答を完全に定着させることと、その他様々な疑問文の練習の機会となりました。

QQA (Quick Questions & Answers) トレーニング

Class Number Name () 1. ペアで先生の質問に早く答えたら勝ち。スピードバトル！
2. ペアで質問し合い、正解ならポイントゲット。ポイントバトル！

1	How are you?	I'm fine [sick/hungry/tired]. ...
2	How is the weather today?	It's sunny [cloudy/rainy/windy/snowy].
3	Is it sunny today?	Yes, it is. / No, it isn't.
4	What's your name?	My name is ...
5	Can I ask your name, please?	Sure. My name is ...
6	Where are you from?	I'm from Japan [Kanagawa/Zama...].
7	How old are you?	I'm twelve [thirteen] years old.
8	How tall are you?	I'm 160 centimeters tall.
9	Are you a student?	Yes, I am. I'm a student of Kurihara Junior High School.
10	What's your job?	I'm a student [a taxi driver/doctor/teacher...].
11	Do you have any brothers[sisters]?	Yes, I do. I have a brother [sister]. / No, I don't.
12	How many brothers do you have?	I have a brother. / I don't have any brothers.
13	Is your brother[sister] a high school student?	Yes, he [she] is. / No, he [she] isn't.
14	Where do you live?	I live in Zama [Tatsunodai...].
15	What's your telephone number?	My telephone number is 046-...
16	What's your hobby?	My hobby is reading books [playing soccer/dancing...].
17	What do you do in your free time?	I usually watch TV [listen to music/sleep...].
18	Do you like <judo>?	Yes, I do. / No, I don't.
19	What's your favorite <food>?	My favorite food is pizza [sushi/chocolates...].
20	What time is it?	It's ten o'clock [ten thirty...].
21	What time do you get up every day?	I usually get up at <seven>.
22	What time did you go to bed last night?	I went to bed at <eleven>.
23	When do you study <English>?	I study it on <Mondays>. / I study it after school.
24	Where do you play <soccer>?	I play it at school. / I play it in the park.
25	Where is the school library?	It's on the third floor.
26	Where did you go yesterday?	I went shopping. / I went to juku school.
27	What day is it today?	It's <Wednesday>.
28	What's the date today?	It's <March third>.
29	Why do you like <music>?	Because it's interesting. ...
30	How do you go to <Ebina>?	I go there by <train>.

My Project 3 “知りたい情報を引き出そう” (p.108-113) ワークシート

英語でインタビューをしよう!

組 番 (

)

QQA (クイックQ&A) を使って、今までに習った疑問文とその答え方を復習しました。
これらの中から、インタビューで使う表現を取り上げて、実際に使って会話をしましょう!

聞きたい情報	質問の仕方
氏名	[] your name? / [] [] ask your name?
職業	[] your []?
年齢	[] [] are you?
住んでいる所	[] [] [] []?
身長	[] [] are you?
好物	[] your favorite food? / [] [] do you like?

～英語でインタビューをするときに気をつけよう～

- ・発音 …適切な声の大きさか、英語らしい発音か、聞き取りやすいスピードか (速すぎない)
- ・姿勢 …アイコンタクトをとって、聞いているか (言っている時に原稿は見ない)
- ・量 …日本語を使わないで言えるか (反応も英語で!)、たくさん質問しているか

→わかった時: I [] / OK / That's nice. ...

もう一回言ってほしい時: [] you say that []? / Pardon? ...

《インタビューにトライ!》

- (1) まず自分がなりきる人物の情報を設定しよう。相手に見られないように…!
- (2) 【ここは英語で】ペアでインタビューをし合い、聞き取った情報を書き込もう。
- (3) 終わったら、プリントを見せ合って答え合わせをしよう。

※メモは日本語でもOK!

自分	なりきる人物は…	相手	聞き取った情報は…	確認
氏名		氏名		
職業		職業		
年齢		年齢		
住んでいる所		住んでいる所		
身長		身長		
好物		好物		
		その他		

!設定に困ったら、裏面を参考にしよう

～振り返り (授業の最後にあてはまるものに○をつけよう)～

英語らしい発音で会話できた【A・B・C】

積極的に質問できた【A・B・C】

アイコンタクトを取って会話できた【A・B・C】

相手の言うことが理解できた【A・B・C】

反省点としては、キャラクター設定と、その応答の仕方を考えさせるのに十分な時間が取れなかったことです。こちらでキャラクター設定したものを提示して、その応答を考えさせて、インタビューを行った方が、“話すこと”にフォーカスした授業ができたのではないかと
いうアドバイスをいただき、今後の参考にしたいと思いました。

しかし、楽しみながら既習事項でやりとりをしたり、工夫して設定した以上の会話をしたりとペアで“話すこと”を集中して行うことができました。また、疑問文とその応答を復習するためのアクティビティはこの単元にとどまらず、進級した現在でも続け、定着してきています。学習内容によって、バージョンアップを図りながら、今後も続けていきたいと考えています。

※次ページに今回の指導案を掲載してあります。

4. 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点	評価規準
導入	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶（既習事項を使った Q&A） 英語の歌（Tomorrow） 本時の目標の確認（英語でインタビューし合おう！） 	<ul style="list-style-type: none"> 英語の授業へ意識付ける 既習事項が定着しているかどうか確認、指導する 	【関心・意欲・態度】 積極的に参加している （発言・姿勢）
展開	<ul style="list-style-type: none"> 前時に行っている QQA トレーニングを行い、疑問文とその答え方の復習をする インタビューに使える疑問文を取り出して確認し、練習をする 	<ul style="list-style-type: none"> 前時に行っていることテンポよく復習する 	【関心・意欲・態度】 積極的に活動に取り組んでいる（姿勢） 【表現】 既習の英語を使い、相手に伝わりやすく質問したり、答えたりしている （姿勢・内容）
	<ul style="list-style-type: none"> ペアワークのルールを説明し、準備をする インタビューをし合い、聞き取ったことをメモする 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ多くの英語を発話するように声をかける 原稿を見すぎず、自然な会話になるように指導する 	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> インタビュー内容の確認をする 振り返りを記入し、次回のテストに備える 宿題の伝達、次回の授業の予告 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の様子をフィードバックする ポイントを再確認する 	

5. 評価規準

	十分満足できる（A）	おおむね満足できる（B）	努力を要すると判断した生徒への具体的な手立て（C）
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	間違いを恐れず、自分の考えや答えを積極的に友達や先生に説明することができる。 積極的に活動に参加し、英語を話そうとしている。	友達の発言や説明を聞こうとし、受動的ではあるが理解しようとしている。 指示された作業を自分なりに行っている。	周囲の生徒からヒントを導き、答えられるようにする。 必要最低限の表現は個別に練習させ、相手から学ぶように声かけする。ペアワーク時に補助をする。
外国語表現の活動	適切な英語を用い、聞いている人に伝わりやすい質問・応答（スピード、目線、内容など）をしている。	多少ひっかかりや不足する点があるが、前向きに英語を話し、活動している。	練習段階から、設定された文を発話できるように発音などを教えておく。様子を見て、補助をする。

6. 本時を参観するにあたってのポイント

（1）本時のねらいにおける視点から

既習事項を使い、それぞれが“話す”活動ができるよう、普段の活動から話すことの抵抗感がなくなるように工夫しているので、現段階での集大成の一つと言える。

（2）研究の視点から

それぞれが決めた設定について表現活動を行うことで、意欲的に活動に取り組むことができるようにしている。また、自然なコミュニケーションをするために、できる限り相手の目を見てやり取りをし、できるだけ多くの英語を使うことに重点を置いている。

3. 研究成果

(1) 仮説に基づいた振り返り

仮説：生徒同士の学び合いを活かしながら、“話すこと”を意識した学習指導を工夫することで、英語で話すことへの抵抗感をなくすることができる。また、自ら話そうという意欲を高め、そのスキルアップにつなげることができるのではないか。

生徒のアンケート結果を見ると、環境・教材面、日常の授業での活動における“話すこと”を意識した学習指導は、それぞれ話すことへの抵抗感をなくすことと同時に、小さなステップの中での達成感を持たせることができました。

[生徒のアンケートより]

◆英語の授業の良いなと感じるところ、もっとこうしてほしいと感じるところはなんですか。

「イックシリーズ」があると、単語が自然と覚えられるので良いなと思いました。

◆英語の授業の良いなと感じるところ、もっとこうしてほしいと感じるところはなんですか。

外国の音楽や映画が好きなので、その日に習った単語などが出てくるといいなと思う事が多かった。
ニミホなど、コミックブックも読む所も大切

◆習った英語を使って、スピーチ（自己紹介、好きなもの紹介）や会話（QQA）をすることについて、自分の取り組みの様子はどうでしたか？

話したりするのが、少し好きになりました。

◆習った英語を使って、スピーチ（自己紹介、好きなもの紹介）や会話（QQA）をすることについて、自分の取り組みの様子はどうでしたか？

小学校の時より積極的に英語も話すことができた。

◆習った英語を使って、スピーチ（自己紹介、好きなもの紹介）や会話（QQA）をすることについて、自分の取り組みの様子はどうでしたか？

自己紹介を自分で作る。自分のために、なにかを話して、いいなと思ふ。

◆習った英語を使って、スピーチ（自己紹介、好きなもの紹介）や会話（QQA）をすることについて、自分の取り組みの様子はどうでしたか？

どの様に言えばいいかと考えることで、こうしかりとりにむこうか。
で手づかした。

◆“英語ができるようになった（自分が成長した）”と感じるときはどんな時ですか。

「イックシリーズ」も全部言えた時

◆“英語ができるようになった（自分が成長した）”と感じるときはどんな時ですか。

日常会話も積極的に出てきたり

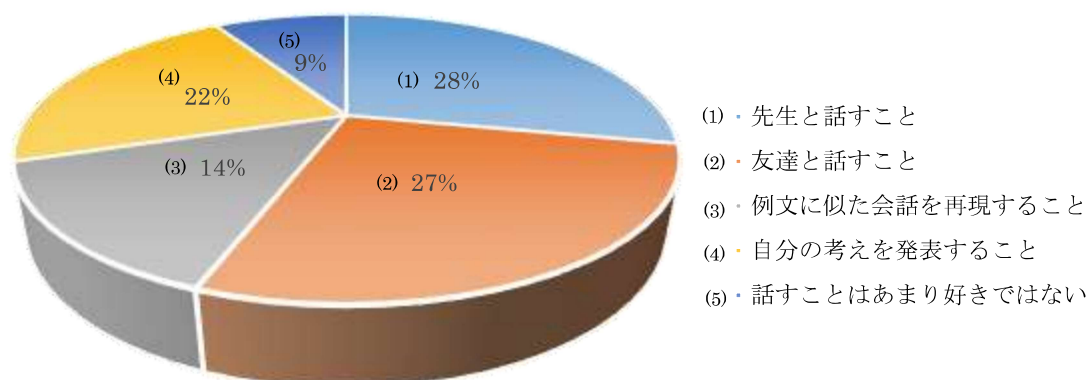
音楽やビデオ、ゲームなど話す所がある

環境・教材面では、大きな工夫ではありませんが、あって当たり前になることで、自然と英語での発話を促したり、それぞれのモチベーションを高めたりという効果が見られました。上記で事例を挙げたように、こちらが期待する以上に、その中でも生徒同士の学び合いがあり、深い学びにつながることも見られたことから、声かけのひとつの違いだけでも、生徒の学びが変わってくるということを改めて実感しました。日常の授業での活動では、継続的に行うことで、日々の成長を見ることができました。そして、生徒一人ひとりが、今までの自分よりも高いレベルを目指そうという意欲を高め、日々の生活（少なくとも英語の授業）における発話につながることもできました。

その結果として、単元をまとめる授業（My Project）での活動では、生徒自身、最初は自信のなかった課題（自分の考えを自分の言葉で“話すこと”）であっても、大きな抵抗なく取り組み、各自が工夫して取り組む中で、スキルアップをしたり、自信を持てたりできたのだと思います。その過程でも、学び合いが有効に活かされ、ひとりで学習するだけでは学べないことを、生徒が得たのではないかと考えられます。

3月に実施したアンケート中の「英語を話すことの中で好きなこと」を尋ねる質問に対する回答を6月の回答と比べると、次のような変化が見られました。

英語を話すことの中で好きなこと（3月調査）



- | |
|--|
| <p>① “話すこと” に抵抗感がある回答が 11%から 9%に減少</p> <p>② 「先生と話すこと」と「友達と話すこと」の差の減少</p> <p>③ 「自分の考えを発表すること」の回答が 12%から 22%に大幅に増加</p> |
|--|

全てが本研究の成果ではないと思いますが、日常の授業での活動と単元をまとめる授業（My Project）での活動を行うことが、自分の考えを発表する機会となり、その中で自分のスキルアップを感じたり、その楽しさを感じたりしたことで、このような回答結果を得ることができたと考えられ、私自身も嬉しく感じました。

「〇〇ができるようになった」と授業で感じることは、生徒にとって重要な体験であり、意欲向上などの学習の良いサイクルにつながります。英語の授業において、“話すこと”ができるようになったというのは、他の3技能以上に達成感を感じやすく、喜びや自信にもつながることがわかりました。

(2) 本研究の成果

学力としての有効な変化があったかどうかは明らかにできないものの、生徒の意識の変化はアンケートの回答からも見る事ができました。また、授業の中で、英語での会話活動への抵抗感がほとんどなく、どの活動も全員が求められている会話に参加し、多くの生徒がそれを楽しんでいる様子が見られています。こうしたことから、アクティブ・ラーニングの視点である、「主体的な学び」「対話的な学び」の実践ができたのではないかと思います。また、コミュニケーション活動を取り入れて終わりではなく、そこで展開された会話や発表を全体に紹介したり、互いに評価し合ったりなど、生徒間での学び合いになるよう意識をしたことで「深い学び」に少なからずつなげることができたと思います。

本研究では“話すこと”をメインに考えたことで、それを実現できましたが、他のことに置き換えたとしても、今後も普通の授業において、「目標の共有」「課題の発見や解決」「表現」「振り返り」を場面に応じて順番を変えながらテンポよく行い、その中で学び合いをさせていくことで、アクティブ・ラーニングにつなげることができるのではないかと考えられます。

また同時に、**Classroom English** などちょっとしたときに話す英語も、生徒から自然と出てくるようになっていきます。言葉を習得するプロセスは、必ずしも練習して覚えるというだけではありません。いかに、日常的に触れさせ、生徒の中に自然に落とし込めるかということも継続して考えていく必要があるということを感じました。

(3) 今後の課題

私自身が“話すこと”を意識した学習指導をする際に普段から心がけているのが、いかにその英語を発話する必要を作ること、またできるだけ自然な会話になる状況を作ることです。例えば、教師側が知っていることを、あえて生徒に尋ねることはしません。買い物のシーンでも、実際に英語を使って買う可能性があるものに設定を変えます。つまり、できるだけ「本当に使うシーン」を作るということです。もちろん、それに至るまでに、文法的な英語の操作パターンを理解させる必要はありますが、英語を話す場面をどう設定するかで、理解度にも大きく関わってくると考えられます。そのようなコミュニケーション活動を考え、機会を与えていくのは、継続した課題であります。そして、その中で得た基礎力をもとに本当の意味での自己表現をする（＝自分の考えや思いを習ったことを用いて話す）活動を取り入れ、実践的なコミュニケーションの機会を次学年に向け、増やしていきたいです。ただし、徐々に生徒間の能力に差が生じてしまうことで、会話の内容にも差がついてしまう懸念もあります。それを埋めていく手段として、学び合いを活用できたらと思います。

今回は“話すこと”に重点を置いた研究でしたが、英語教育の中では、“読むこと”“聞くこと”“書くこと”も含めた4技能をバランスよく、統合的に伸ばしていかなければいけないことは言うまでもありません。生徒たちのアンケートの回答や普段の様子を見ると、“書くこと”についての力を伸ばしたいと考えていること、またそれにつまずく生徒が多いことがわかります。現段階では、小学校での英語教育と中学校での英語教育の大きな隔たりであり、生徒たちにとっての壁でもあります。実際に、授業中に積極的かつ正しい発話ができている生徒が、定期テ

ストになるとスペルミスをするなど、「読めるけど書けない」「話せるけど書けない」というケースは多く見られます。現在、生徒たちに定着した Quick シリーズを利用して、書く練習をさせて小テストを行うなどの取り組みを始めています。

今後、小学校での英語教育の拡充などでより弾力的に変えていく必要はありますが、“音から文字への移行”というのは大きな課題です。

4. おわりに

このたび、研究する機会をいただいたことで、英語を発話させること、また学び合いをさせることの重要性に改めて気づき、そのために日常の教材研究による指導の工夫・改善が継続的に必要であると感じました。また、授業観察や成績だけではない生徒の実態を知り、自らの授業と照らし合わせることで、生徒たちに必要なものは何かを考えることができました。

生徒の主体的な話す活動を取り入れた授業を今後も取り入れるため、よりよい指導案を考えていくと同時に、日常的に行っている活動や声かけも十分に考えて行っていきたいです。現在、研究対象とした生徒を継続して指導していますが、この研究成果や課題を、生徒のさらなるステップアップや3年間を見通した指導はもちろん、自分自身の研鑽に活かしていこうと考えています。

5. 参考文献

平成 28 年度座間市外国語教育研修講座（東京学芸大学 粕谷恭子教授）資料

平成 28 年度英語教員指導力向上研修講座

（神奈川県教育委員会事務局・国際言語文化アカデミア）資料

文部科学省ホームページより

- ・今後の英語教育の改善・充実方策について 報告
～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言（平成 26 年 9 月 26 日）
- ・アクティブ・ラーニングの視点と資質・能力の育成と関係について
—特に「深い学び」を実現する観点から—（平成 28 年 3 月 14 日）
- ・外国語ワーキンググループにおける検討事項に関する主な論点（平成 28 年 3 月 22 日）
- ・新学習指導要領、学習指導要領のポイント等（平成 29 年 3 月 公示）

年間指導計画

英語科		1学年	指導者	衣笠有香・宮坂歩
目標	・少人数授業を活かした基礎学力の定着 ・自己表現力の向上		・やる気を高める評価の実践	
月	Program	単元名	時間	指導内容
4	1	アルファベットに慣れよう	7	・あいさつ、英語の指示、身のまわりの英語、アルファベット、単語 ・I am ~ / You are ~ ・Are you ~? (Yes, I am. / No, I am not)
	2	アメリカからの転校生	8	・外国語で挨拶をしたり、簡単な自己紹介をする方法を学ぶ ・単語、文を書く時のルールを学ぶ ・100までの数字の言い方と、年齢、電話番号の言い方を学ぶ
5	3	ウツド先生がやってきた	8	・Do you ~? (Yes, I do. / No, I do not) ・I don't ~ ・自分が関心がある事柄(スポーツや音楽など)についての情報を含めた、さらに詳しい自己紹介や、簡単なインタビューの方法を知る
	4	曜日と天気の違い	2	・曜日の違いや天気に関する表現を学ぶ ・What day is it today? (It's ~)
6	5	リサイクル活動	6	・How many ~? ・2つ以上の人、物について言えるようにする
	6	自分のことを話そう	3	・自己紹介の文章を書き、英語で発表する ・英語の表示、構文の意味することを学ぶ ・This [That] is ~. / Is this ~? (Yes, it is. / No, it is not) ・Where is ~? ・He [She] is ~ ・ものについて説明したり、人を紹介する方法を知る
7	7	時刻をたずねる	1	・時間に関する表現を学ぶ ・She plays ~ ・Does he like ~? (Yes, he does. / No, she does not.) ・He doesn't like ~ ・イギリスの文化や英語の「国際語」としての役割について関心をもつ
	8	由紀のイギリス旅行	11	・イギリスの文化や英語の「国際語」としての役割について関心をもつ
9	9	季節・月の名前、順番・日付	2	・What's the date today? ・月の名前と序数を学び、日付の言い方を学ぶ ・Who is ~? ・When do you ~? ・人称代名詞の目的格 ・北海道のイルカやシャチの生態を知り、自然の偉大さを感じる
	10	The Wonderful Ocean	11	・Which ~ is...? / Whose ~ is...? ・英語を聞いて質問に答える

10	8	Origami	11	・He can ~. ・Can you ~? (Yes, I can. / No, I can not.) ・How ~? ・自分が得意なことや、相手の得意なことについて伝えたり、聞いたりする方法を学ぶ。
		PU⑦-S 許可を求める・依頼する	1	・Can I ~? / Can you ~?
		PU⑧-L 仮装パーティー	1	・英語を聞いて質問に答える
		MP2 人を紹介しよう	4	・他を紹介をする
	9	A New Year's Visit	11	・I am cooking ~. ・Are you studying ~? (Yes, I am. / No, I am not.) ・What are you doing? ・今していることについての言い方を学ぶ
		PU⑨-R 想像しながら読んでみよう	1	・写真を見て、適切な表現を考える
	10	Mike's Visit to Washington, DC.	11	・I visited ~. ・Did you ~? (Yes, I did. / No, I did not.) ・I did not ~. ・Why do you ~? (Because ~) ・アメリカの文化についてのやりとりを通して、国際交流への関心を高める
		PU⑩-S 買い物①(トヤツを買おう)	1	・Can I help you? ・How much is it? ・Here you are. ・買い物で使う表現を学ぶ
		MP3 知りたい情報を引き出そう	4	・既習の疑問文を用い、情報を収集し、発表する。
	2	11[R] Grandma Baba and Her Friends on a Sleigh	11	・I went to ~. ・Did you go to ~? (Yes, I did. / No, I did not.) ・物語を読み、そこにこめられたメッセージを読み取り、それについて考える
		PU⑪-W 日記	2	・日記で使う表現を学ぶ
	3	文法まとめ	3	・1年間 で学習した内容の復習